

# 文化の力で奈良を元気に!!

## ～文化イベントは地域活性化の起爆剤～

### 奈良県地域振興部長の山下氏

火曜午餐会・7月第2例会は16日12時15分から当部5階大会議室で開催した。講師に奈良県地域振興部長の山下保典氏を招き「文化の力で奈良を元気に!!～文化イベントは地域活性化の起爆剤～」をテーマに語って頂いた。山下氏は文化イベントの実施の意義について「地域に存在する文化資源を改めて再確認、再認識することができ、観光客誘客による交流促進、地域活性化に繋がる」と語った。講演要旨は次の通り。

2010年1月1日から1年間を通して平城遷都1300年祭を開催した。事業費は約100億円。県内各地の来場者数の目標だった1,200～1,300万人を上回る1,777万人が集まった。

カウントダウン・オープニングイベントとして、平城京を守る四神（玄武・白虎・朱雀・青龍）をテーマに、県内の4会場で開催。記念祝典では、当時の天皇皇后両陛下にご臨席いただいた。

平城宮跡事業では、無料・開放型の季節リレー・フェア方式として、従来のパビリオン・博覧会方

式とは違い、平城宮跡が持っている場の力、魅力を最大限に活用した事業を展開。県内各地事業では、「めぐる奈良」として、県内の社寺で、秘宝・秘仏の特別公開や特別講和をしていただいた。そして、伝統行事など四季を通し、県内各地の魅力を周遊・探訪できる多彩な事業を展開。関連広域事業では、海外、国内の奈良とゆかりのある地域との連携を展開。

「東大寺鑑真和上像揚州里帰り」では、東大寺にある重文の木質の鑑真和上像を、ふるさとである中国揚州の大明寺に里帰りの出展を

行った。

そして、1300年祭のクロージングイベントとして、来場者や協力いただいた方への「感謝の夕べ」、大みそかにはスタッフ内輪での「閉幕セレモニー」を開催し、1300年祭を締めくくらせていただいた。

### 遷都1300年祭の成果総括

遷都1300年祭の成果総括として、経済波及効果額などの理論値・定量的な側面だけではなく、定性的効果を得ることができた。

県民をはじめ、県内の観光関連事業者が奈良の良さを再認識することが出来、皆で奈良を盛り上げていこうという気運が生まれた。観光関連事業者自ら積極的に県外からの誘客を働きかけ、結果的に自ら利益享受できると認識できた。そして、県内外の来訪者をもてなすボランティアに参加する意識が浸透した。

### 県内イベント

平城宮跡での賑わいを創出するためのイベントとして、春には「平城京天平祭」、夏の「天平たなばた祭り」、そして秋の「みつきうまし祭り」を開催している。これらは1300年祭の後継事業として今年で9回目となる。

また、「音楽で奈良を元気に」との思いで、2012年より「ミュージックフェストなら」を、県内の社寺など歴史文化遺産を会場として開

催。奈良で上質な文化・芸術に触れる機会を提供している。

そして、夏の奈良の夜の魅力を高めるため、奈良公園一帯で「なら燈花会」を開催。ゆったりと時の流れる世界遺産の地・奈良に、集う人々の祈りを、ろうそくの灯りで照らし出すイベント。昨年20周年を迎え、定着してきている。

今年度で5回目となる「大立山まつり」。冬のオフシーズンである1月に誘客を目的とした取り組み。また、奈良を代表する春日大社、興福寺、東大寺を幻想的な光の道でつなぎ、美しい瑠璃絵の世界に誘う「しあわせ回廊～なら瑠璃会」も、早春のイベントとして充実、定着してきている。

### 新たな取り組み

9月28日（土）、29日（日）に、全国都道府県持ち回りの「第27回地域伝統芸能全国大会」を、初め

て橿原市で開催する。国の外郭団体の地域芸能伝統活用センター、奈良県、そして橿原市の共催で、伝統芸能の公演などを通じて、地域に対する住民の誇りや愛着を高め、未来へ向けた保存・伝承につなげるとともに、その魅力を幅広い世代や国内外へ発信する。これを契機に、地域伝統芸能を守り語り続けていくためにも、単発で終わらせないようにしなければいけないと思っている。

### 文化イベントの意義

文化イベントの実施の意義としては、地域伝統芸能などいろんな素材を使うことで、地域に存在する文化資源を改めて再確認、再認識することができる。そして、地域の人に対する誇り、愛着が住民に根付くようになる。また、イベントの媒介により、経済的な利益も享受出来ると思っている。そして、観光客誘客による交流促進、地域活性化に繋がることが、イベント実施の意義がある。

そして、県や市町村がイベントを主体的に実施するのは、民間団体、地域住民、或いは企業が主体的に実施していこうという意識を持っていただき、力を合わせていただく、それまでのつなぎの機関であると考えている。県や市が中心ではなく、皆さんの力の輪を結集していただくことで、より定性的な側面の充実が図れるのではと思っています。

